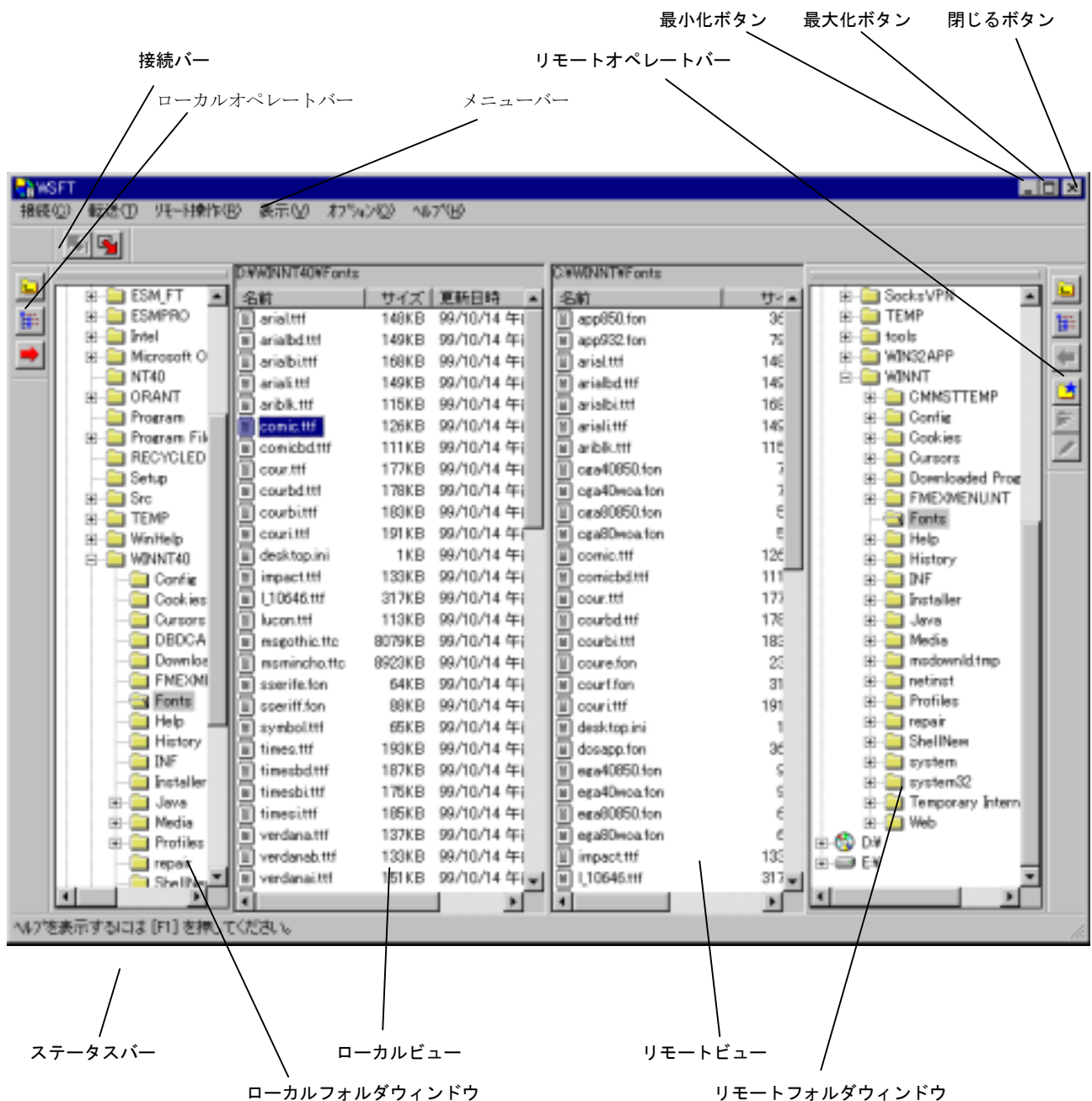


11 WSFT

WSFTは、CMクライアントに接続して、ファイル転送を行うGUIです。

11.1 画面構成

本節ではWSFTの画面構成と画面各部の概要を説明します。



■最小化ボタン

WSFTのウィンドウをアイコンの状態にします。

■最大化ボタン

WSFTのウィンドウサイズを画面全体に広げます。また、画面全体に広がった状態で押すと、元のウィンドウサイズに戻ります。

■閉じるボタン

WSFTを終了します。

■メニューバー

メニューバーにはWSFTで利用できる機能がグループ別に示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。

■ステータスバー

作業中の機能説明や、WSFTの状態等を表示します。表示する必要がない場合は、[表示]メニューの[ステータス]バーを選択することにより、非表示とすることができます。

■接続バー

リモートシステムとの接続および切断を行います。好みの位置にレイアウトして使用できます。位置を変更する方法は、通常のツールバーと同じです。バー上のボタン以外の部分をマウスでドラッグし、好みの位置へドロップしてください。

■ローカルオペレートバー

ローカルシステム(ローカルビュー)の操作を行います。好みの位置にレイアウトして使用できます。

■リモートオペレートバー

リモートシステム(リモートビュー)の操作を行います。好みの位置にレイアウトして使用できます。

■ローカルフォルダウィンドウ

ローカルシステムのフォルダー一覧をツリー形式で表示します。ここで選択したフォルダの内容がローカルビューに表示されます。好みの位置にレイアウトして使用できます。

WSFTは、ネットワークドライブ上に存在するファイル、フォルダの転送をサポートしています。したがって、ネットワークドライブは表示しません。ご注意ください。

■リモートフォルダウィンドウ

リモートシステムのフォルダー一覧をツリー形式で表示します。ここで選択したフォルダの内容がリモートビューに表示されます。好みの位置にレイアウトして使用できます。

WSFTは、ネットワークドライブ上に存在するファイル、フォルダの転送をサポートしています。リモートシステムにユーザログオンしている場合、そのユーザが接続しているネットワークドライブを表示します。

■ローカルビュー

ローカルシステムの現在のフォルダの内容を表示します。このビューから送信するファイル（フォルダ）を選択します。また、受信するファイル（フォルダ）はこのビューで表示しているフォルダに作成されます。

■リモートビュー

リモートシステム現在のフォルダの内容を表示します。このビューから受信するファイル（フォルダ）を選択します。また、送信するファイル（フォルダ）はこのビューで表示しているフォルダに作成されます。

11.2 メニュー

本節では、次に示す5種類のメニューについて、その機能を説明します。

- 1) 接続
- 2) 転送
- 3) リモート操作
- 4) 表示
- 5) オプション
- 6) ヘルプ

11.2.1 接続メニュー



- 「接続」・「接続」

リモートシステムと接続します。このコマンドを選択すると、「接続」ダイアログが表示されます。接続の方法等については、「11.3 リモートシステムとの接続について」を参照してください。

- 「接続」・「切断」

リモートシステムとの接続パスを切断します。

- 「接続」・「終了」

WSFT を終了します。

11.2.2 転送メニュー



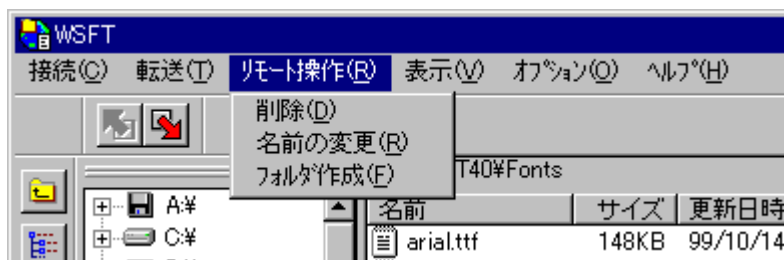
- 「転送」・「送信」

現在、ローカルビューで選択しているファイル(フォルダ)をリモートシステムに送信します。送信の方法等については「11.4 ファイル転送について」を参照してください。

- 「転送」・「受信」

現在、リモートビューで選択しているファイル(フォルダ)をリモートシステムから受信します。受信の方法等については「11.4 ファイル転送について」を参照してください。

11.2.3 リモート操作メニュー



- 「リモート操作」・「削除」

リモートビュー上で選択しているファイル(フォルダ)を削除します。

- 「リモート操作」・「名前の変更」

リモートビュー上で選択しているファイル(フォルダ)の名前を変更します。

- 「リモート操作」・「フォルダ作成」

リモートビューに表示しているフォルダ内(リモートフォルダウィンドウで選択しているフォルダ内)に新しいフォルダを作成します。


11.2.4 表示メニュー




- 「表示」・「ツールバー」・「接続」

接続バーの表示、非表示を切り替えます。

- * 接続バー

 (接続ボタン)

リモートシステムと接続します。接続メニューの「接続」コマンドを選択した場合と同様です。


 (切断ボタン)

リモートシステムとの接続パスを切断します。接続メニューの「切断」コマンドを選択した場合と同様です。


- 「表示」・「ツールバー」・「ローカル」

ローカルオペレートバーの表示、非表示を切り替えます。


- * ローカルオペレートバー

 (上へボタン)

現在ローカルビューに表示しているフォルダの一つ上のフォルダに移動します。

 (フォルダー一覧ボタン)

ローカルフォルダウィンドウの表示、非表示を切り替えます。表示メニューのウィンドウ、「ローカルフォルダ」コマンドを選択した場合と同様です。


 (送信ボタン)

現在ローカルビュー上で選択しているファイル(フォルダ)をリモートシステムへ送信します。転送メニューの「送信」コマンドを選択した場合と同様です。


- 「表示」・「ツールバー」・「リモート」

リモートオペレートバーの表示、非表示を切り替えます。


- * リモートオペレートバー

 (上へボタン)


現在リモートビューに表示しているフォルダの一つ上のフォルダに移動します。

 (フォルダー一覧ボタン)


リモートフォルダウィンドウの表示、非表示を切り替えます。表示メニューのウィンドウ、「リモートフォルダ」コマンドを選択した場合と同様です。

 (受信ボタン)


現在リモートビュー上で選択しているファイル(フォルダ)をリモートシステムから受信します。転送メニューの「受信」コマンドを選択した場合と同様です。

 (フォルダ作成ボタン)

現在リモートビューに表示しているフォルダ内に、新しいフォルダを作成します。リモート操作メニューの「フォルダ作成」コマンドを選択した場合と同様です。

 (削除ボタン)

現在リモートビュー上で選択しているファイル(フォルダ)を削除します。リモート操作メニューの「削除」コマンドを選択した場合と同様です。

 (名前の変更ボタン)

現在リモートビュー上で選択しているファイル(フォルダ)の名前を変更します。リモート操作メニューの「名前の変更」コマンドを選択した場合と同様です。

- 「表示」・「ステータスバー」

ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。

- 「表示」・「ウィンドウ」・「ローカルフォルダ」

ローカルフォルダウィンドウの表示、非表示を切り替えます。

- 「表示」・「ウィンドウ」・「リモートフォルダ」

リモートフォルダウィンドウの表示、非表示を切り替えます。

11.2.5 オプションメニュー



- 「オプション」・「オプション設定」

オプション設定を行います。

11.2.6 ヘルプメニュー



- 「ヘルプ」・「トピックの検索」
WSFT のヘルプファイルの目次を開きます。
- 「ヘルプ」・「バージョン情報(WSFT)」
WSFT のバージョン情報を表示します。

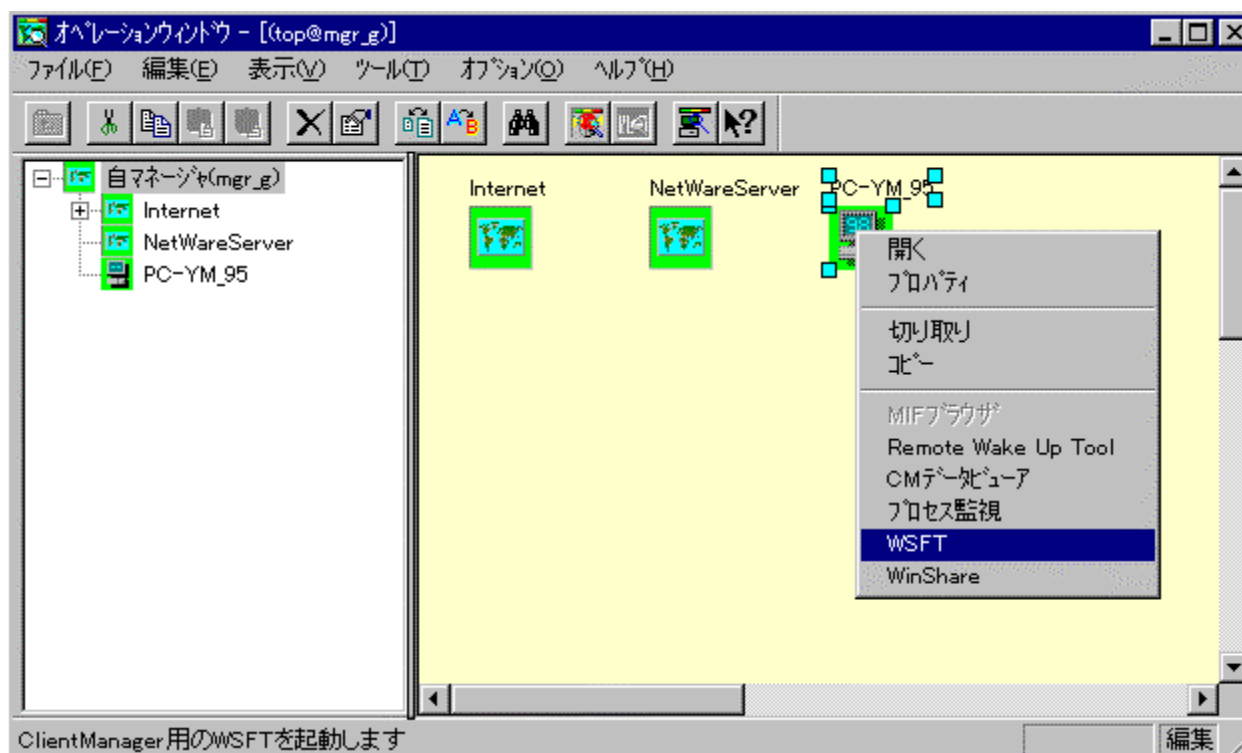
11.3 リモートシステムとの接続について

11.3.1 リモートシステムとの接続

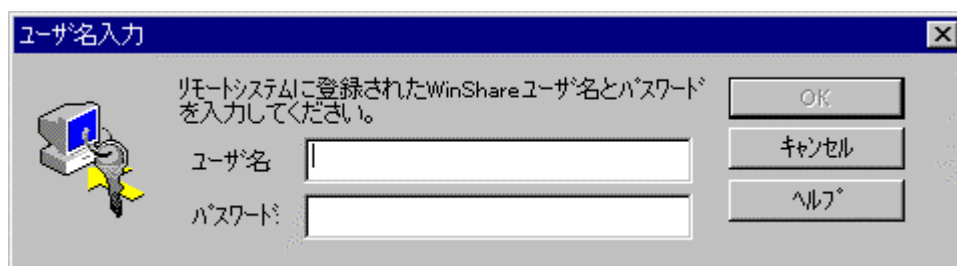
この節では、リモートシステムと接続する方法を記述します。

11.3.1.1 オペレーションウィンドウからの接続

- ①オペレーションウィンドウの、接続したいクライアントのアイコンを右クリックし、表示されるポップアップメニューからWSFTを選択してください。

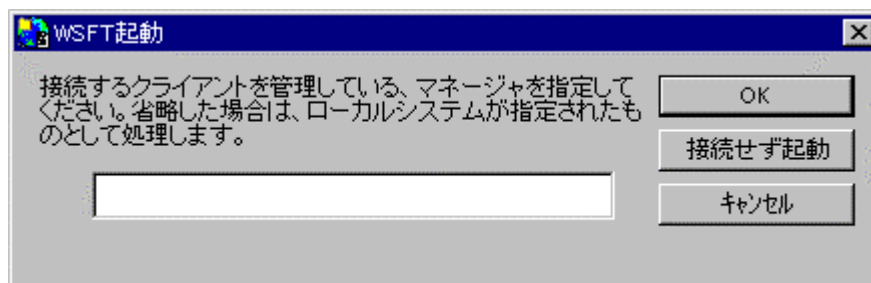


- ②選択したクライアントと接続を開始します。ただし、リモートシステム上のWinShareで接続するユーザを制限している場合は、「ユーザ名入力」ダイアログが表示されます。ユーザ名とパスワードを入力して認証を行ってください。接続するユーザの制限等、WinShareによるセキュリティの設定については、「11.3.2 セキュリティの設定」を参照してください。

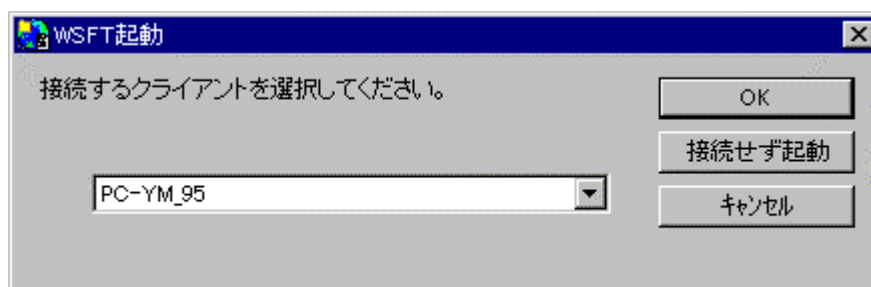


11.3.1.2 スタートメニューからの接続

- ① 「スタートメニュー」 - 「ESMPRO_CM」 - 「WSFT」 を選択してください。「WSFT起動」ダイアログが表示されます。




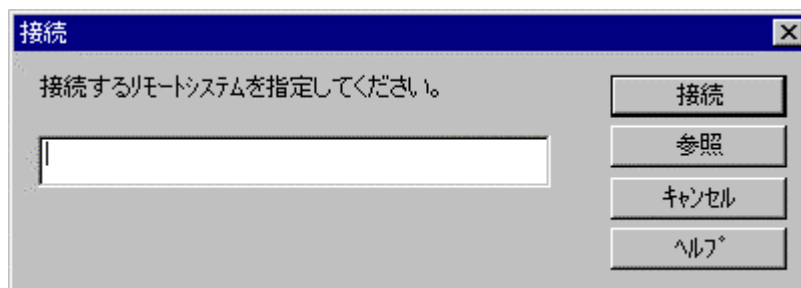
- ② 「WSFT起動」ダイアログでマネージャ名を指定し、「OK」ボタンを押してください。「WSFT起動」ダイアログのクライアント選択画面が表示されます。



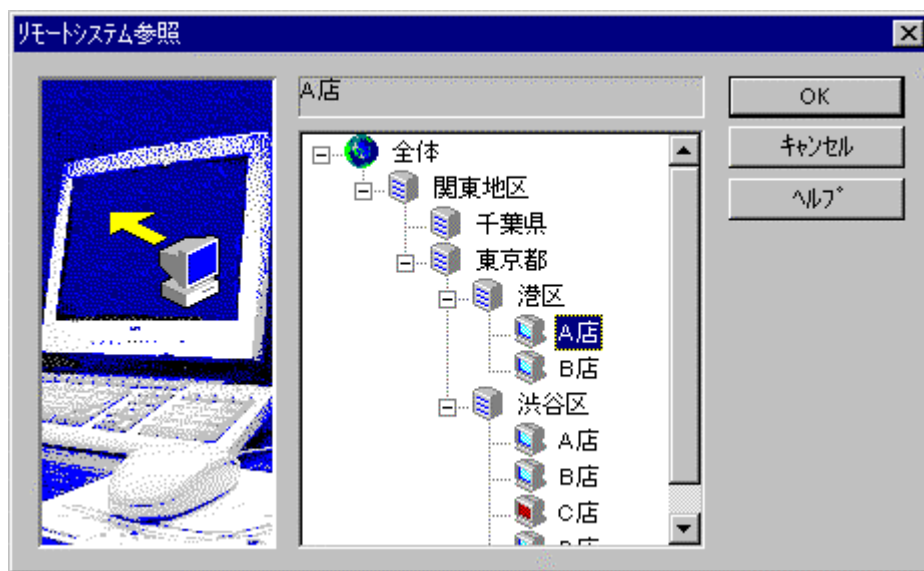
- ③ 接続するクライアントを選択し、「OK」ボタンを押してください。選択したクライアントとの接続を開始します。このとき、接続するリモートシステム上のWinShareユーティリティの設定によっては、ユーザ認証を必要とする場合があります。詳しくは、「11.3.2 セキュリティの設定」を参照してください。また、「接続せず起動」ボタンを押すと、リモートシステムと接続していない状態のWSFTが起動します。

11.3.1.3 WSFT からの接続

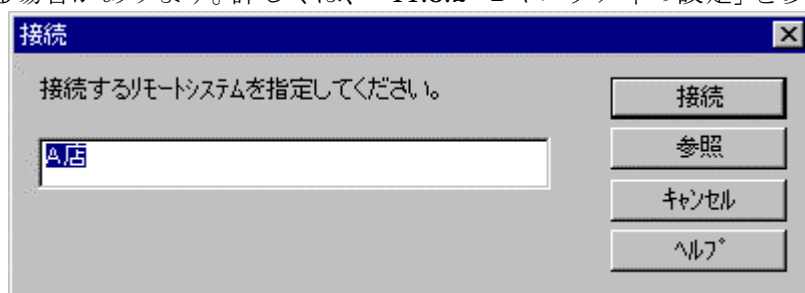
- ① まず、接続メニューの接続コマンドを選択するか、接続バーのボタンを押してください。「接続」ダイアログが表示されます。



- ②システム名を入力するか、ダイアログの「参照」ボタンを押して接続するリモートシステムを選択します。ここでは「参照」ボタンを押した場合を説明します。「参照」ボタンを押すと、「リモートシステム参照」ダイアログが表示され、リモートシステムの一覧が表示されます。ここで、表示されるリモートシステムは、**WinShare**のリモートPC接続先管理に登録してあるものです。**WinShare**のリモートPC接続先管理での登録等、**WinShare**の操作に関する詳しい説明は、**WinShare**のヘルプを参照してください。



- ③「リモートシステム参照」ダイアログのリモートシステムの一覧からリモートシステムを選択し、「OK」ボタンを押すと「接続」ダイアログのリモートシステムの欄に選択したリモートシステムの名前が表示されます。「接続」ボタンを押し、リモートシステムとの接続を開始してください。このとき、接続するリモートシステム上の**WinShare**ユーティリティの設定によっては、ユーザ認証を必要とする場合があります。詳しくは、「11.3.2 セキュリティの設定」を参照してください。

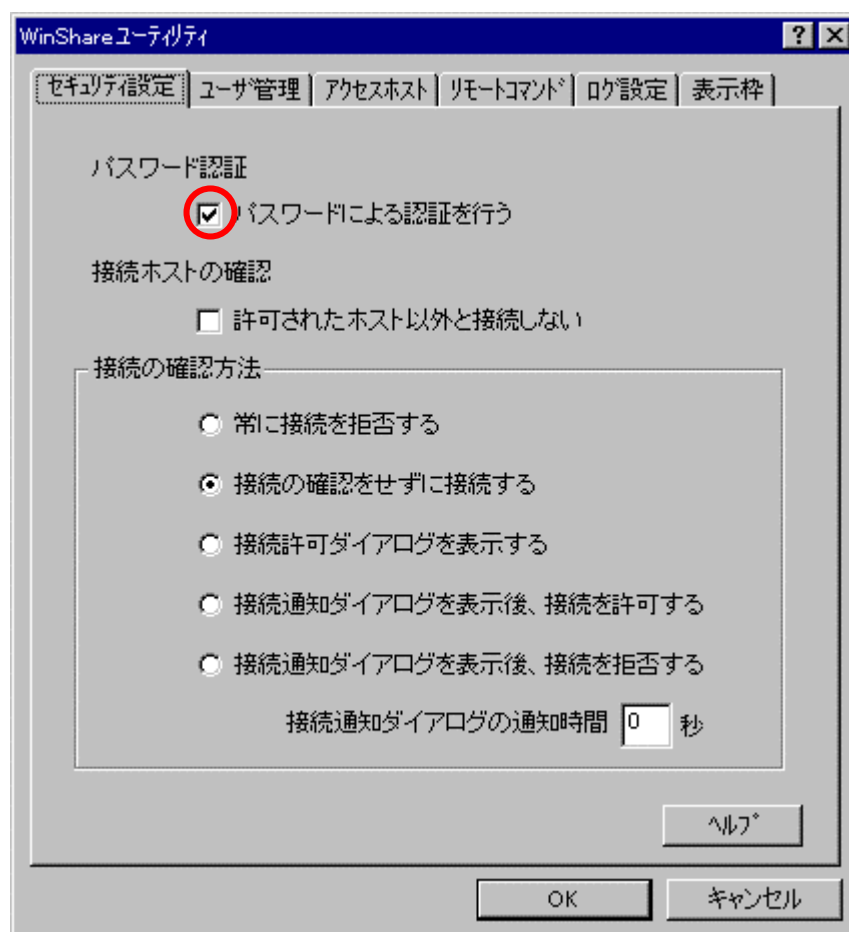


11.3.2 セキュリティの設定

WSFTは、WinShareのセキュリティ情報を使用して、他システムからの接続を制限することができます。WinShareのセキュリティ情報を設定するには、WinShareユーティリティを使用します。以下に設定方法を記述します。

■接続するユーザを制限する

- ①接続するユーザを制限するリモートシステム上で、WinShareユーティリティを起動します。
- ② [セキュリティ設定] タブを選択し、画面を表示します。この画面のパスワード認証チェックボックスをチェックするとユーザ管理に登録されたユーザ名とパスワードによる、ユーザの認証を行います。



③次に接続を許可するユーザを登録します。

1. [ユーザ管理] タブを選択し、画面を表示します。

2. [ユーザ名]、[パスワード] を入力します。

パスワードは、確認のため [パスワードの再入力] に再度入力する必要があります。

必要に応じて、ユーザの説明を [説明] に入力します。

すでに登録されているユーザ名を入力した場合には、登録されているユーザのパスワードや説明が変更されます。

3. ユーザを登録する場合には [登録] ボタンをクリックします。

登録を中止する場合には [クリア] ボタンをクリックします。引き続き登録を行う場合には、[ユーザ名] [パスワード] を入力します。

WinShare ユーザ管理

セキュリティ設定 **ユーザ管理** アクセスホスト リモートコマンド ログ設定 表示枠

ユーザ名
説明
パスワード
パスワードの再入力

登録 クリア

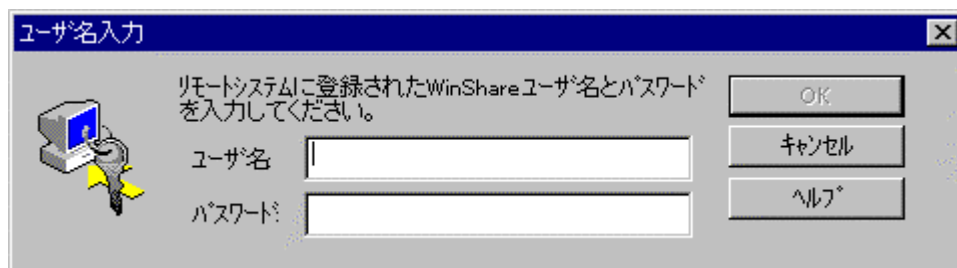
WinShare ユーザー一覧

ユーザ名	説明
winshare	WinShareの管理責任者

登録内容の変更 ユーザの削除 ヘルプ

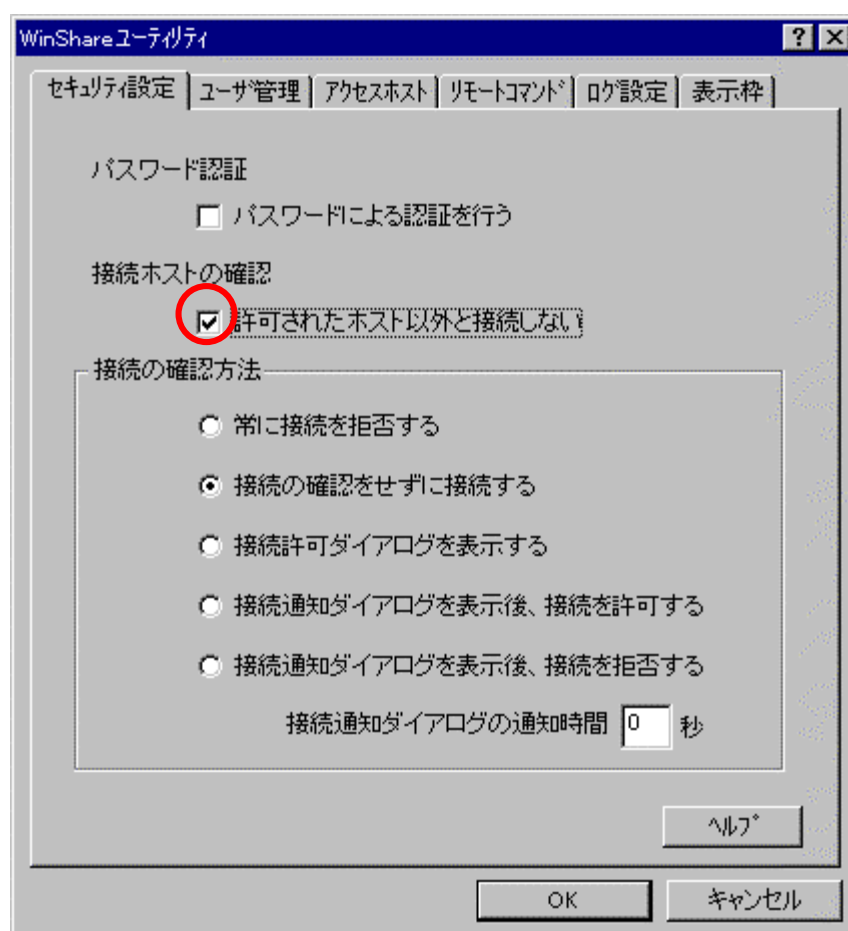
OK キャンセル

④これで、これらの設定を行ったリモートシステムと接続する際は、「ユーザ名入力」ダイアログが表示されます。設定したユーザ名、パスワードを入力し、認証を行ってください。



■接続するシステムを制限する

- ①接続するシステムを制限するリモートシステム上で、WinShareユーティリティを起動します。
- ② [セキュリティ設定] タブを選択し、画面を表示します。この画面の接続ホストの確認ボックスをチェックするとアクセスホストに登録されたシステム以外からの接続はすべて拒否します。



③次に、接続を許可するシステムを登録します。

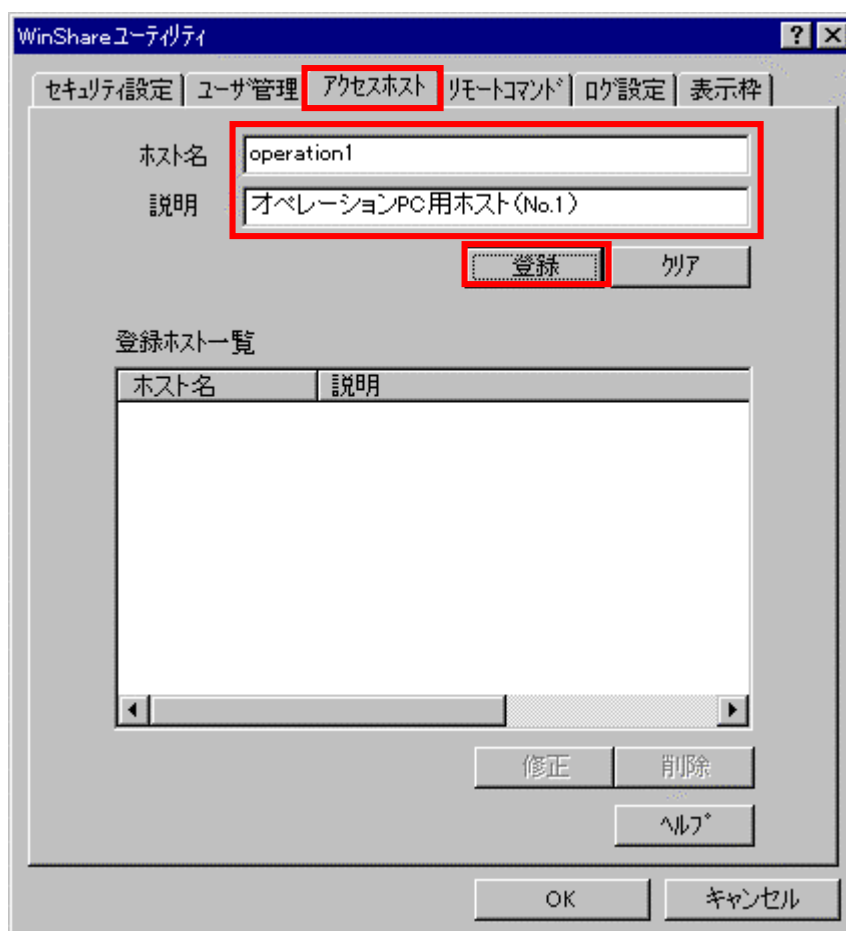
1. [アクセスホスト] タブを選択し、画面を表示します。
2. [ホスト名] を入力します。

ホスト名には、半角 **a** から **z**、**A** から **Z** の各文字、半角 **0** から **9** の各数字、および半角ハイフン“-“の任意の組み合わせを使用してください。

必要に応じて、そのシステムの説明を [説明] に入力します。

すでに登録されているホスト名を入力した場合には、登録されているホストの説明が変更されます。

3. ホストを登録する場合には [登録] ボタンをクリックします。
登録を中止する場合には [クリア] ボタンをクリックします。
引き続き登録を行う場合には、[ホスト名] を入力します。



④これで、これらの設定を行ったリモートシステムには、上記のアクセスホストに登録しているシステム以外からの接続はできなくなります。

11.4 ファイル転送について


この節では、ファイル転送について説明します。

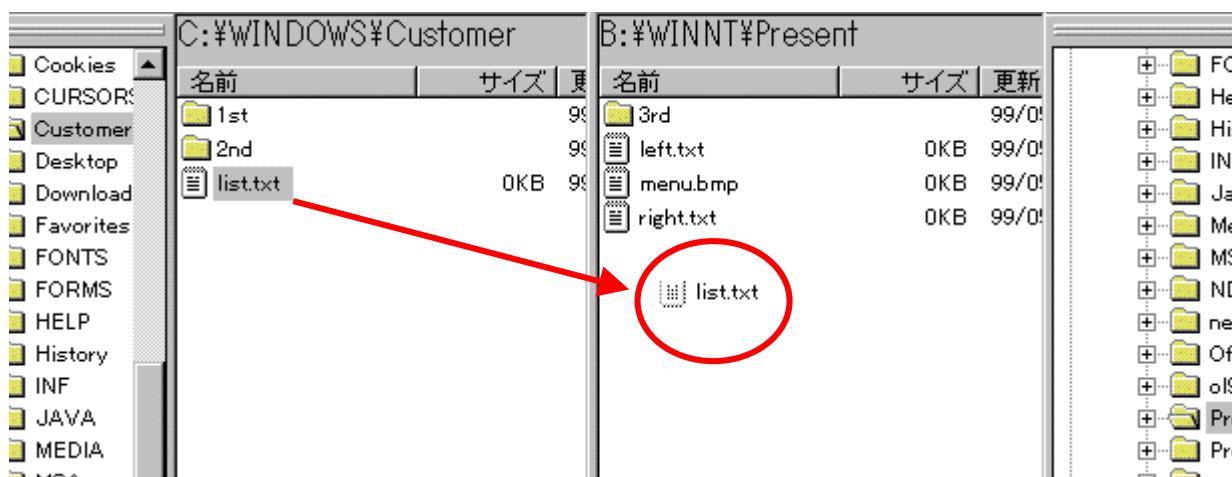
11.4.1 ファイル転送の方法

■ローカルシステムからリモートシステムへファイル（フォルダ）を送信する

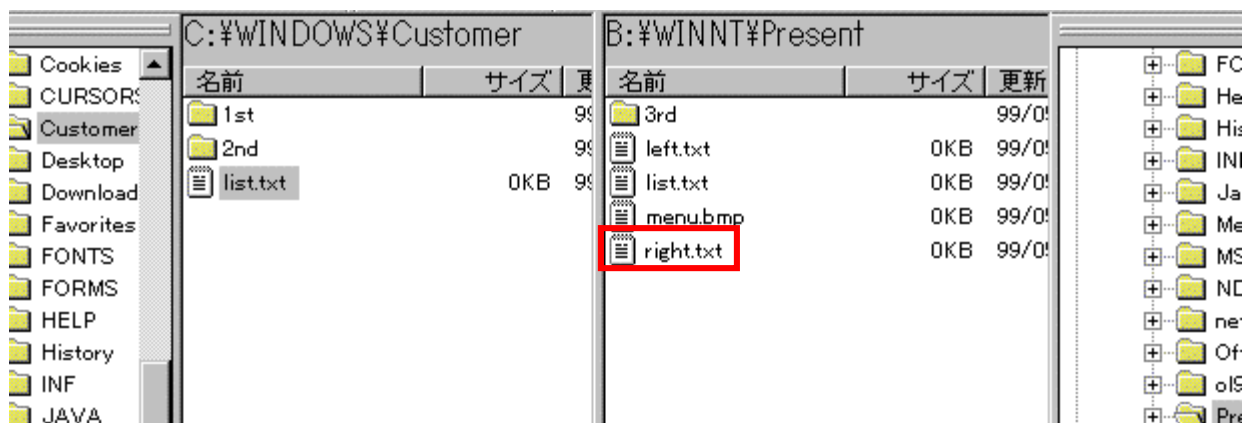
ローカルビューで送信するファイル（フォルダ）を選択します。

ローカルビューで選択したファイル（フォルダ）を、マウスでドラッグし、リモートビューにドロップします。

「転送」メニューの「送信」コマンドを選択するか、ローカルオペレートバーの  ボタンを押すことでも送信できます。




ファイル（フォルダ）が送信され、リモートビューに表示しているフォルダ内に作成されます。

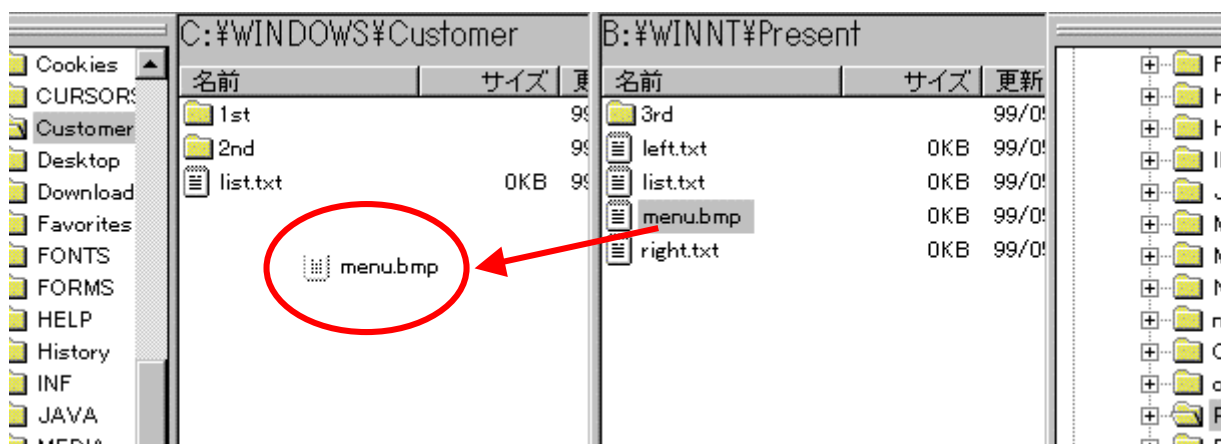


■リモートシステムからローカルシステムへファイル(フォルダ)を受信する。

リモートビューで受信するファイル（フォルダ）を選択します。

リモートビュー上で選択したファイル（フォルダ）を、マウスでドラッグし、リモートビューにドロップします。

「転送」メニューの「受信」コマンドを選択するか、リモートオペレートバーの  ボタンを押すことでも受信できます。



ファイル（フォルダ）を受信し、ローカルビューに表示しているフォルダ内に作成します。



ファイルの送信、受信に際しては、以下の注意事項があります。ご注意ください。

1. 送信したファイルは常にリモートビューに表示しているフォルダ内（リモートフォルダウィンドウで選択しているフォルダ内）に作成されます。リモートビュー内に表示されているフォルダを選択された状態（反転表示）にしていても、そのフォルダ内に作成されることはありません。
2. 受信したファイルは常にローカルビューに表示しているフォルダ内（ローカルフォルダウィンドウで選択しているフォルダ内）に作成されます。ローカルビューに表示されているフォルダ

を選択された状態（反転表示）にしても、そのフォルダ内に作成されることはありません。

11.4.2 ファイル転送規則

WSFTによるファイル転送は以下の規則にしたがって行われます。

■ファイルを送信（受信）する

転送先のフォルダ（送信時の場合は、リモートビューにその内容を表示しているフォルダ）が読み取り専用属性を持つ場合は転送できません。

転送先のフォルダ内（送信時の場合は、リモートビューにその内容を表示しているフォルダ内）に、転送しようとしているファイルと同じ名前のファイルが存在する場合、転送先のファイルは、転送する同じ名前のファイルによって上書きされます。

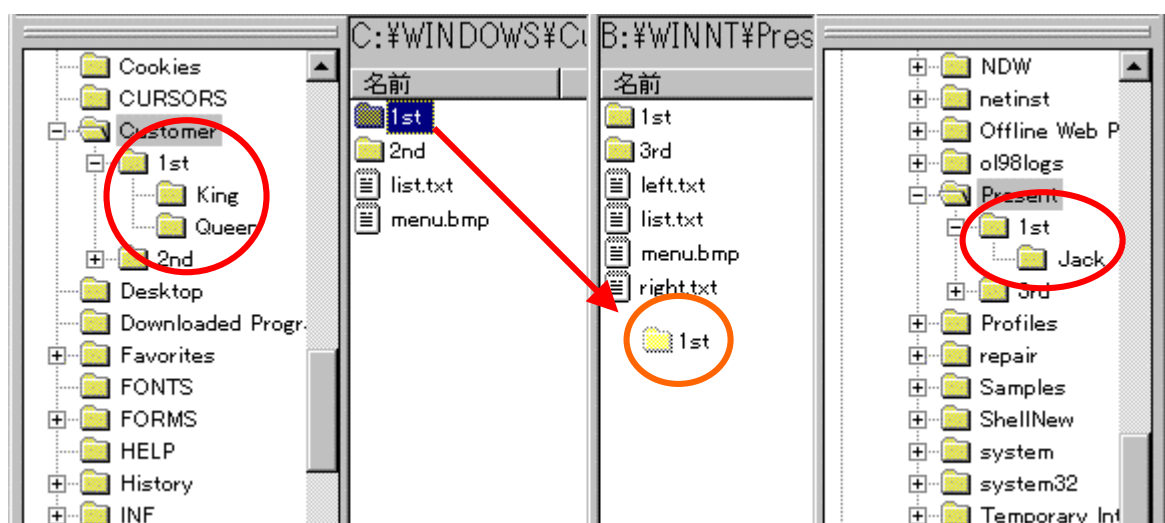
ただし、転送するファイルと名前が一致している転送先のファイルが読み取り専用属性を持つ場合は転送できません。

■フォルダを送信（受信）する

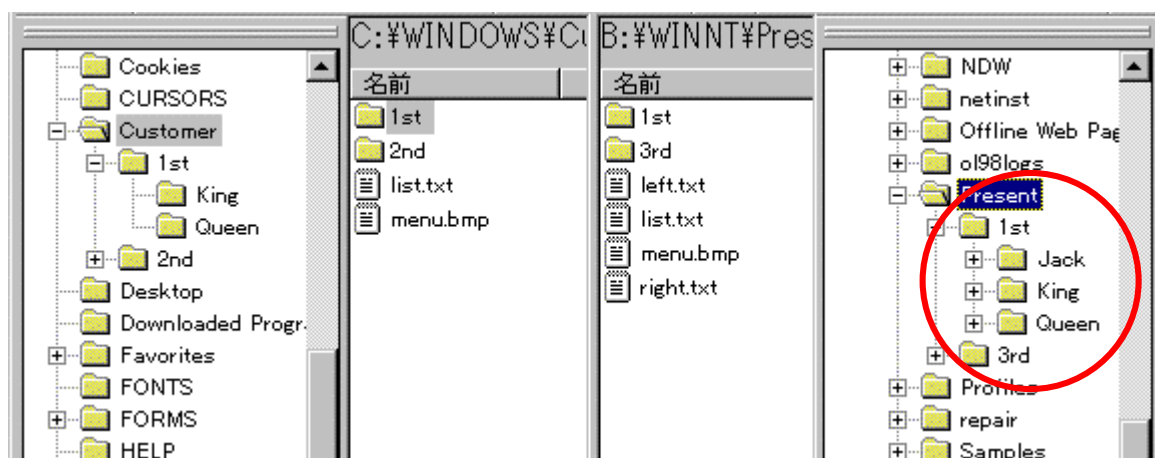
転送先のフォルダ（送信時の場合は、リモートビューにその内容を表示しているフォルダ）が読み取り専用属性を持つ場合は転送できません。

転送先（送信時の場合はリモートビューに表示しているフォルダ内）に、転送しようとしているフォルダと同じ名前のフォルダが存在する場合、転送するフォルダと名前が一致している転送先のフォルダ内に、転送するフォルダの内容を追加します。以下に例を挙げます。

ローカルシステムのフォルダをリモートシステムに送信します。このとき、転送先には同じ名前のフォルダが存在しています。



送信が完了し、ビューで選択したフォルダと名前が一致している転送先のフォルダの内容に、ビューで選択したフォルダの内容が追加されます。



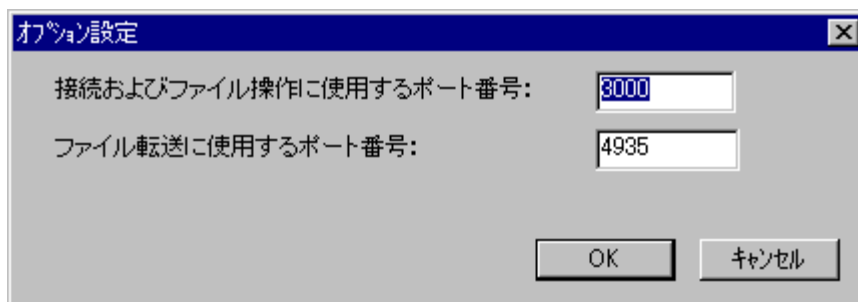
11.5 オプション

11.5.1 オプション設定

この節では、オプション設定について記述します。

■ポート番号の設定

「オプション」―「オプション設定」を選択してください。。



接続およびファイル操作に使用するポート番号

接続先のESMPRO/CM CMITサービスのAPIの使用するポート番号を変更している場合には、同一の値に本項目を変更してください。通常は変更する必要はありません。

ファイル転送に使用するポート番号

接続先で設定している「ファイル転送に使用するポート番号」がデフォルト値(4935)から変更している場合には、本項目の値も同一の値に変更してください。通常は変更する必要はありません。接続先システムの使用するファイル転送のポート番号は、接続先システムでWSFTSG.EXEを起動することで、参照／変更できます。